

2019年度 特別研究推進費実績報告書

2020年 4月 15日

北九州市立大学長 様

(所属・職名) 外国語学部・教授

(氏名) 北 美 幸

2019年度に交付を受けた特別研究推進費に係る研究実績について、次のとおり報告します。

研究課題名	大学入試におけるアファーマティブ・アクション（積極的差別解消策）：マイノリティ優遇と「多様性」確保の問題点、本学への適用の可能性					
実施内容・研究成果の要旨 (概要書を別途添付)	<p>学歴および高等教育機関の学位という形で専門職業資格を得ることは、マイノリティの人々にとって、貧困その他の恵まれない環境から脱出し、社会的上昇を果たすための有効な手段である。その傾向は、クレデンシャルイズム（資格証明書主義）の風潮が強く、移民や人種的マイノリティを抱えるアメリカ合衆国で強く見られるが、実は、基本的に入試選抜が学力に基づいて行われ、国公立大学の授業料が平準化されてきた日本でも同様であった。</p> <p>しかしながら、2018年には、「学生の多様性確保」を理由に、ハーバード大学でアジア系の志願者を不利にする点数操作が行われていることが明らかになった。また日本でも、複数の大学医学部で男子志願者を優遇する点数操作が行われていたことが大きなニュースとなったが、その際の大学側の説明では、概してコミュニケーション能力が低い男子を優遇するためだったとされた。</p> <p>本研究では、大学入試選抜におけるマイノリティ志願者の優遇と学生集団の「多様性」確保のあり方を探るため、アメリカ合衆国の高等教育機関におけるアファーマティブ・アクション（積極的差別解消策）について、①歴史、②現在、③本学を含む日本の大学への適用可能性の3点から検討を試みる。研究代表者と研究分担者は、2020年4月に開催されるアメリカ歴史家協会（Organization of American Historians, OAH）年次大会において、“Inaffirmative Action: Diversity, Racism and Admissions Policies in U.S. Colleges and Universities” というパネルディスカッションの発表を申し込み、採択された。本研究は、主にそれに向けて研究者間で議論を重ね、考察を深める方法をとったが、同学会が新型コロナウイルスのためキャンセルされたため（3月13日決定）、現在、アメリカ教育学会（American Educational Research Association, AERA）年次大会等、他の学会で改めて研究発表をおこなうことを協議している。なお、OAH研究概要等を別途添付する。</p>					
	合計	使用内訳（単位：円）				
交付決定額	511,199	備品費	消耗品費	報酬	その他	旅費交通費
支出額	511,199	0	122,494	0	16,545	372,160
執行残額	0	0	0	0	0	0
共同研究者	所属・職名		氏名		役割分担等	
	ルーズベルト大学・名誉教授		リン・ウェイナー		研究分担者	
	徳島大学・准教授		吉岡宏祐		研究分担者	
	ヴァージニア・コモンウェルス大学・講師		デイヴィッド・ウェインフェルド		研究分担者	